

## 第5章 まちづくりの課題

### 5-1 まちづくりの課題

まちづくりの課題は、多気町の現況、上位・関連計画等を踏まえ設定します。

#### 【上位・関連計画】

人口ビジョン H37年 (2025) 14,200人	
松阪地域定住自立圏	多気都市計画区域 マスタープラン
“ええまち”づくり プラン など	まち・ひと・しごと 総合戦略 など

#### 【現行マスタープランの検証】

- 人口減少を踏まえた将来人口推計の見直し
- 産業フレームは近年の推移を踏まえ見直し
- 住宅地は人口減少傾向を踏まえ推計の見直し
- 商業地は小売業の傾向を踏まえ推計の見直し
- 工業地は工業の傾向を踏まえ推計の見直し
- 重点地区は土地利用動向を踏まえ見直し

#### 【現況からの課題】

- 人口・世帯数の減少⇒子育て環境の整備
- 農業、工業、商業、観光の振興
- 相可駅から松阪方面の少ない鉄道本数
- 町道、農道の整備促進
- 未改修河川整備の促進
- 榎田川や佐奈川、五桂池ふるさと村等の良好な自然の保全・活用
- 自然景観、市街地景観、歴史景観などの保全
- 地震時災害、風水害への対応

#### 【アンケート調査】

- 住環境
  - ・まちの将来イメージとしては「生活環境に優れた住みよい住宅地」が望まれている
- 産業・観光
  - ・重点項目として「産業による雇用の場の充実」が挙げられ、「現在ある工業地での企業誘致」、「多角的な産業振興」の推進等が望まれている
- 交通環境
  - ・重点項目として「公共交通の利便性向上」「生活道路の整備」など交通環境の向上が多く挙げられている
- 都市環境・景観
  - ・重点項目として「医療・福祉サービスの充実」「地震、治水等の防災対策の充実」など挙げられている

#### 【まちづくりの課題】

1. 人口減少下における子育て世代などが住みやすい住環境の確保
  - ・人口・世帯数の減少や少子高齢化が進行しています。
  - ・役場、駅周辺など利便性の高い地域において、子育て世代をはじめ高齢者や若者など多様な世代が住みやすい住環境の確保が必要です。

2. 多気町の風土や立地環境を活かした産業・観光の振興
  - ・既存の農業、製造業を中心とした産業に加え、健康、医療、美容などの複合的な工業機能の導入や観光振興の推進が必要です。

3. 日常生活の移動しやすさを支える交通環境の向上
  - ・人口減少下における持続的な公共交通ネットワークを構築が必要です。
  - ・道路についても、広域交通のアクセス機能の強化など、引き続き整備を進めていく必要があります。

4. 恵まれた自然環境の保全・活用
  - ・榎田川、佐奈川や山林等の豊かな自然環境、貴重な動植物の生態系、優良農地を保全し、人と自然が共生できる環境づくりが必要です。

5. 災害に強いまちづくり
  - ・地震時災害や水害からの被害を最小限に抑え、住民が安全に安心して暮らせる地域づくりが必要です。

6. 広域連携による高齢化社会を見据えた生活サービス機能の確保
  - ・救急医療などの、町内において不足する医療・福祉などの生活サービス機能については、定住自立圏内での連携により確保し、圏域内での人口維持と持続的な都市経営を目指していく必要があります。

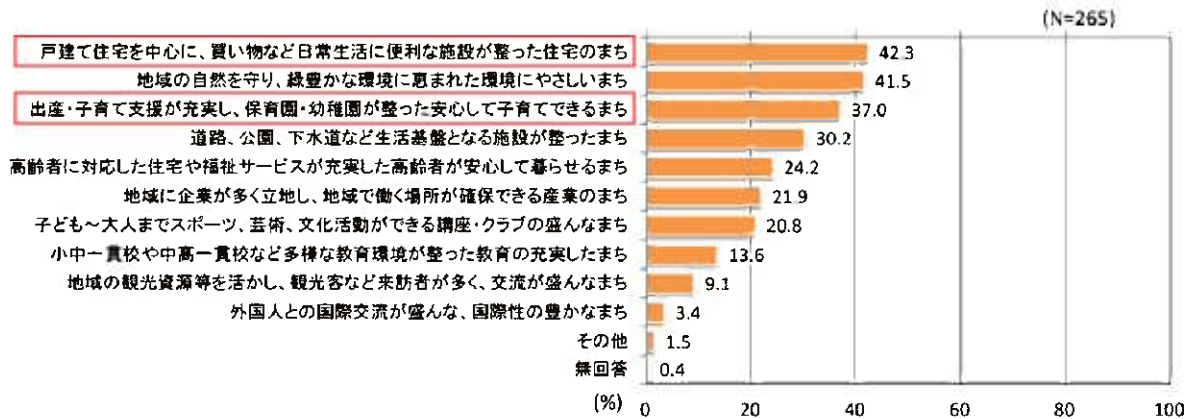
(1) 人口減少下における子育て世代などが住みやすい住環境の確保

多気町は新産業の進出により都市化が進行し、一時的に人口・世帯は増加しましたが、今後、全国的に人口が減少していく中、本町においても人口・世帯数の減少が見込まれます。

また、人口減少とあわせ少子高齢化は着実に進行しており、これに対応したまちづくりを推進していく必要があります。

本町は多気町役場・JR相可駅周辺に公共施設や生活サービス施設が集積しているほか、JR多気駅は津や松阪方面の列車運行本数が多い状況です。これら利便性の高い地域において、人口維持の牽引役となる子育て世代をはじめとして、高齢者や若者など多様な世代が住みやすい住環境の確保が必要です。

■ 定住・帰郷に必要なまちづくり



※ (対象：高校生) アンケート

出典：まち・ひと・しごと総合戦略アンケート



■ 快速みえ

(名古屋～多気～鳥羽間を1日13往復)



■ クリスタルタウン



■ 相可台周辺の病院

(2) 多気町の風土や立地環境を活かした産業・観光の振興

本町の新たな産業動向として、近年指定された「みえライフイノベーション総合特区（三重県）：平成24年7月25日指定」に基づき「みえライフイノベーション推進センター（MieLIP多気）」が位置づけられています。

また、相可高校が運営する高校生レストラン「まごの店」、相可高校と万協製菓（株）が共同開発する化粧品、自転車や観光資源を利用したヘルスツーリズムの開発など、産学官の連携による取り組みが進められています。

さらに、多気IC周辺において、商業事業者、製菓会社、大学、高校、行政の産学官協働のもと準備が進められている滞在型複合施設「アクアイグニス多気」（2019年オープン予定）の計画があります。

これらの動きを踏まえ、既存の農業や製造業を中心とした産業に加え、健康・医療・美容などの複合的な工業機能の導入や観光振興を推進し、バランスのとれた産業構造と、豊かな自然環境や歴史的資源を活用した潤いのある都市づくりが必要です。

■ 多気町における産学官の取り組み例



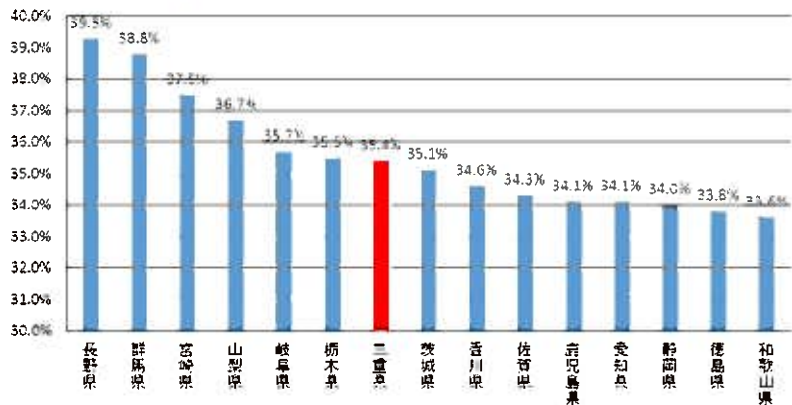


(3) 日常生活の移動しやすさを支える交通環境の向上

高齢化の進展により、今後車の運転に不安を抱える人が一層増加することが想定され、高齢者が安心して外出できる移動手段の確保が必要です。また、車の運転できない学生などの通学手段の利便性向上のため、鉄道やバスの運行本数増加、鉄道・バスの接続見直しなども求められます。

こうした課題を踏まえ、平成25年10月より、エリアタクシー「でん多」(乗降場間における予約型乗合運行)が導入され利用者を伸ばしています。今後も人口減少下における持続的な公共交通ネットワークを構築していく必要があります。

また、道路についても、広域交通のアクセス機能の強化、多気地域と勢和地域の連絡性強化、安全で快適な生活道路空間整備などを目指し引き続き整備を進めていく必要があります。



資料：警視庁「運転免許統計」(H26.3)、統計局「推計人口」(H26.10)

■ 75歳以上運転免許取得率 (三重県は全国第7位と高い)



■ 町営バス、エリアタクシー“でん多”



■ 勢和兄国松阪線バイパス整備

(4) 恵まれた自然環境の保全・活用

榊田川、佐奈川や山林等の豊かな自然環境、貴重な動植物の生態系、優良農地を保全し、人と自然が共生できる環境に配慮した地域づくりが求められています。

このため、開発にあたっては、里山などの自然をできる限り存置し適正な管理を行うとともに、施設の緑化を推進する必要があります。

また、歴史・文化資源を活かした個性的で魅力的な地域づくりを進める必要があります。



■ 優良農地

(5) 災害に強いまちづくり

本町は南海トラフ地震防災対策推進地域としての対応や、台風や集中豪雨など風水害への対応が必要です。

地震については、建物耐震化の推進などが必要です。

水害については、榊田川の想定最大規模の洪水浸水想定区域図（次頁参照）において、榊田川沿いの地域が浸水想定エリアに入っており、ソフト、ハード両面の備えが必要です。

また、あわせて自主防災組織等の育成・支援、災害等の危機管理体制の整備、防災行政無線の整備などを推進する必要があります。



■ 防災訓練の様子

(6) 広域連携による高齢化社会を見据えた生活サービス機能の確保

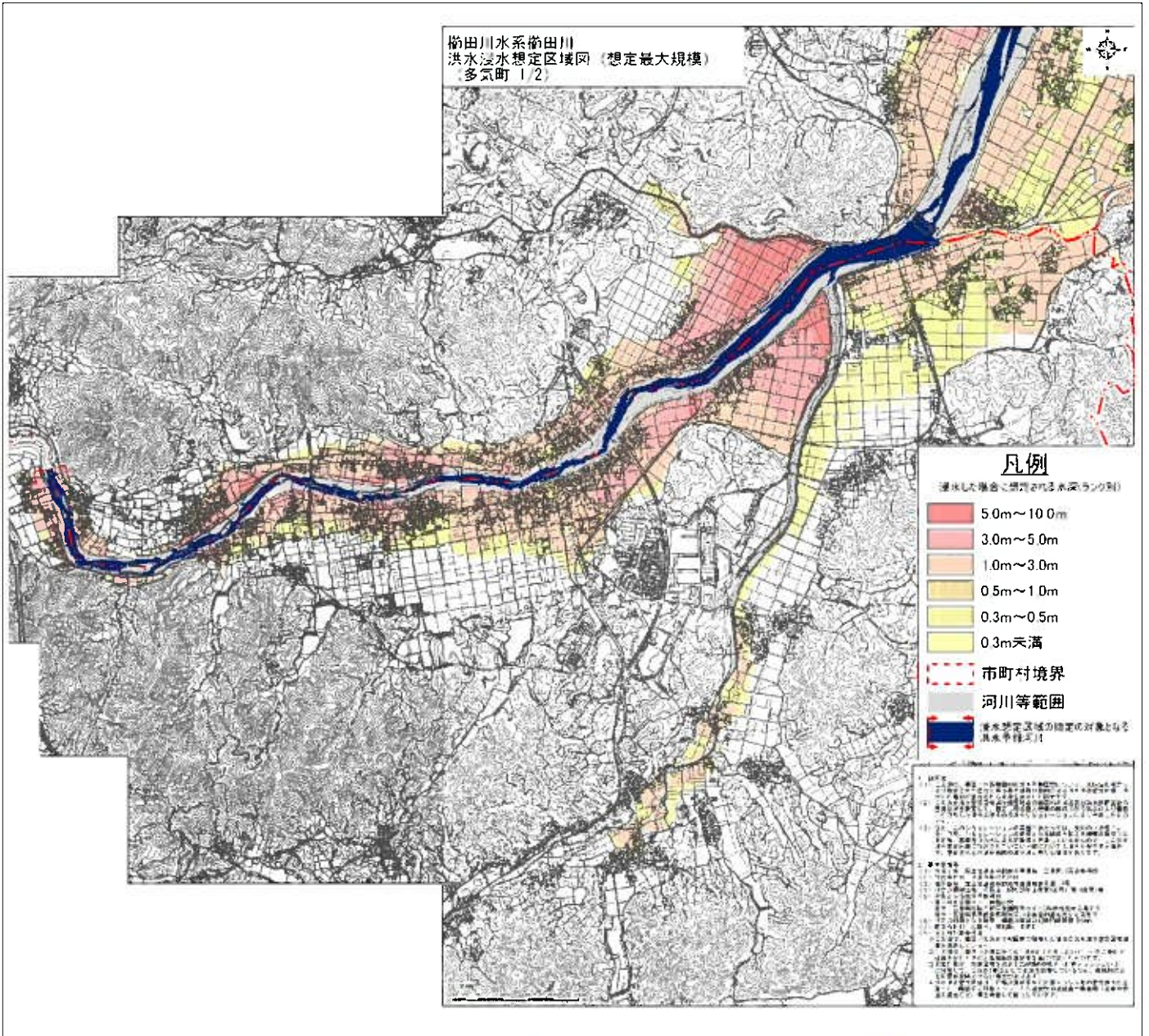
「松阪地域定住自立圏共生ビジョン」において、松阪市、多気町、明和町、大台町の1市3町にて医療・福祉・産業などについての連携施策が位置づけられています。

救急医療などの、町内において不足する医療・福祉などの生活サービス機能については、全てを町内で解決するのではなく、定住自立圏内での連携により確保し、圏域内での人口維持と持続的な都市経営を目指していくことが求められます。



■ 地域福祉センター「天啓の里」





出典：国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 HP

■ 榊田川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）